

平成 25 年度 第 2 回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

1 開催日時

平成 25 年 8 月 22 日（木）10：00～11：30

2 開催場所

札幌市役所 6 階 1 号会議室

3 出席者

(1) 委員

蟹江委員長、岡田委員、小山委員、山下委員、山本委員

(2) 札幌市職員

財政局管財部長、財政局工事管理室長、財政局契約管理課長、財政局工事契約担当課長、財政局技術管理課長、財政局建築設備検査担当課長、交通局総務課長、水道局総務課長、病院局経営企画課長 他 8 名

4 次第

(1) 開会

(2) 委員長あいさつ

(3) 報告事項

ア 工事等発注状況について（平成 25 年度 6 月末）

(4) 抽出工事等の決定・審議

(5) その他

(6) 閉会

5 審議概要

(1) 報告事項

【小山委員】 工種・等級別の発注状況を見ると、土木 A 2 の件数が昨年度よりも増加しており、地域要件を細分化した土木 B 等級の件数と同程度になっている。A 2 の発注件数が増加している原因は何か。また、A 1、A 2 にも細分化を実施する必要があるか。

【札幌市】 発注量は、補正予算により全体的に増加している状況。A 1、A 2 は、B ほど競争が激しいものではないことから、細分化する状況にはない。

【蟹江委員長】 通常の制限付や成績重視型は大幅に増加しているが、総合評価方式は微増である。成績重視型と総合評価方式の発注量に関する発注者側の考えは如何か。

【札幌市】 総合評価方式は事務処理等の都合上、現状以上の件数は難しい。成績重視型は比較的事務負担が軽く、発注量が増加傾向にある。今後については、いろいろな意見を踏まえ、検討していきたい。

【蟹江委員長】 成績重視型の割合が増えていくのであれば、その効果を注視する必要があるものとする。

今年度の平均落札率が上昇しているのは、労務単価の上昇等に伴う工事原価の上昇が反映されたものか。

【札幌市】 本年4月に国において労務単価が大幅に引き上げられたことに関し、本市においても直ちに単価上昇分を反映させたところであるが、落札率上昇の要因としては、昨年度分に最低制限価格の引き上げ前の案件が含まれていることによるものである。

【小山委員】 落札率が90%を超えたことに関する札幌市の見解は如何か。

【札幌市】 最低制限価格の上限が90%という枠組みにおいて、全国的には落札率が90%を超えている自治体もあり、その中での落札率と認識している。

【山本委員】 工事と業務における随意契約の増減の要因は何か。

【札幌市】 工事の随意契約が減少した要因は、随意契約で発注していた一部の工事に関して、発注ロットを大きくしたことにより一般競争入札で執行したことによるもの。業務の随意契約が増加した要因は、工事の発注量増に伴い、工事監理業務が増えたことによるものである。

【山下委員】 造園工種のくじ引き発生率、参加業者が増加している要因は何か。

【札幌市】 くじ引き発生率は、業者の積算精度が向上しているため。参加者の増に関しては、造園の登録業者数が増えているわけではない。

(2) 抽出工事等の決定・審議

小山委員により選定された3件の工事について、審議を行うことを決定した。

ア 清田41号線（清田37号線～清田38号線間）生活道路整備工事について

【蟹江委員長】 地区要件を細分化した結果、平均参加者数は想定どおり減少している状況となっている。

【小山委員】 参加者の状況を把握する上で、資料に登録業者数が明記されていれば、理解も早いと思う。

【札幌市】 検討させていただく。

【岡田委員】 細分化により入札に参加できる件数は減少する。業者側の意見は如何か。

【札幌市】 一入札あたりの参加者数が減少しており、競争緩和されたことに関して評価を受けているものと思う。細分化にあたっては、業者数や事業量のバランスを考慮して区分けしている。確率的には変わらないが、余計な応札をする必要がなくなり、負担が軽減されたものと考えられる。

【蟹江委員長】 細分化した結果、参加回数が減少することは、必ずしも悪いこととは言えない。見積りの精度が上昇することなど、メリットになることが多いと思う。参加者数が減少し、業界側も納得しているということで、地区要件細分化の方策は、成果があったものと思う。

イ 北発寒第 66 号線（北発寒第 10 号線～北発寒第 61 号線間）ほか 4 線生活道路整備工事について

【蟹江委員長】 成績重視型に参加できる点数の基準は何か。

【札幌市】 工事成績点の上位 20 者以上となる点数を基準としている。

【小山委員】 件数は少ないが、既にしゅん工した 2 年型の工事成績点はあまり良くない。

【札幌市】 5 年型と 2 年型の両方に参加できる業者が施工した工事も含まれており、2 年型のみに参加できる業者の方がむしろ少ない。この結果だけで、単純に評価はできないものとする。また、基本的に成績重視型の工事は難易度が高い。そのため、点数が低くなる可能性もある。

【蟹江委員長】 難易度を要求しているから成績重視型にしており、通常の工事と比較すると点数が出にくい条件となっている。技術的に難しいものほど成績重視型にするという考え方は正しいと思う。

【山下委員】 20 者以上を基準としているとのことだが、業種によっては平均参加者数が 20 者未満のものがある。参加可能業者数を減らしたり、成績重視型の実施をやめるなど、一律の基準でなくてもよいのではないか。

【札幌市】 本市の基本的な考え方として、最低限の競争環境を維持するという趣旨により 20 者以上としている。

【蟹江委員長】 20 者以上参加できるのに参加しないというのは、官民の受注比率の違いによる可能性がある。土木工事では公共工事の比率が大きいですが、電気工事などは民間工事の比率が大きいので、資格があっても参加しないことが多い。入札状況を見ると、業種によって対応を分けるという考え方もあり得ると思うが、結果を注視していきたい。

ウ 東札幌小学校改築工事（主体工事）について

【山本委員】 入札保証を提出するのはいつか。

【札幌市】 入札時に提出していただく。

【蟹江委員長】 本案件で失格判断基準に該当した失格者は、制度改正を知らなかった可能性もある。

【札幌市】 失格者の入札金額だと改正前の旧基準でも失格判断基準が適用になる。制度改正に関わらず、結果は失格となる。

【蟹江委員長】 低入札価格調査に関しては、妥当性の評価自体が難しく、一般的に落札者としめない根拠を示しにくいので、こうした試みは評価できるものである。

(3) その他

次回の抽出工事の選定は山下委員が行うことを決定した。